

## ■負債に関する仕訳 解説

1. (借) 支払手形	200,000	(貸) 支払手形	205,000
支払利息	5,000		

振り出していた手形の支払期日延期の了承を得たときは、先に振り出していた手形が消滅するため支払手形勘定(負債)の借方に記入し、支払期日を延期した手形を新たに振り出すため支払手形勘定(負債)の貸方に記入する。また、満期日の延期にともない発生した利息を支払利息勘定(費用)の借方に記入する。なお、新たな支払手形勘定には、手形額面のほかに、満期日の延期にともない発生した利息を加えるとの指示があるため加算する。

2. (借) 当座預金	150,000	(貸) 買掛金	150,000
-------------	---------	---------	---------

買掛金支払いのため振り出した小切手が未渡しだったときは、買掛金の支払い手続きが行われていないため、当座預金勘定(資産)の借方に記入するとともに、買掛金勘定(負債)の貸方に記入する。

3. (借) 当座預金	50,000	(貸) 未払金	50,000
-------------	--------	---------	--------

広告宣伝費などの費用や、備品などの資産の代金支払いのため振り出した小切手が未渡しだったときは、代金支払い手続きが行われておらず未払いの状態であるため、当座預金勘定(資産)の借方に記入するとともに、未払金勘定(負債)の貸方に記入する。

4. (借) 備品	1,000,000	(貸) 営業外支払手形	1,000,000
-----------	-----------	-------------	-----------

固定資産である備品を購入したときは、取得原価にて備品勘定(資産)の借方に記入する。また、商品の購入など主たる営業活動以外の取引において約束手形を振り出したときは、営業外支払手形勘定(負債)の貸方に記入する。

5. (借) 機械装置	1,000,000	(貸) 営業外支払手形	1,440,000
構築物	200,000		
前払費用	240,000		

固定資産である機械装置および構築物を購入したときは、取得原価にて機械装置勘定(資産)および構築物勘定(資産)の借方に記入する。また、主たる営業活動以外の取引において約束手形を振り出したときは、営業外支払手形勘定(負債)の貸方に記入する。なお、割賦購入にかかる利息相当額については、問題の指示により前払費用勘定(資産)の借方に記入する。

(1) 固定資産の取得原価合計 ¥1,200,000 = 機械装置 ¥1,000,000 + 構築物 ¥200,000

(2) 営業外支払手形 ¥1,440,000 = @ ¥120,000 × 12 枚

(3) 利息相当額 ¥240,000 = 前記(2) ¥1,440,000 - 前記(1) ¥1,200,000

6. (借) 営業外支払手形	120,000	(貸) 当座預金	120,000
支払利息	20,000	前払費用	20,000

固定資産を購入したさいに振り出した約束手形について、手形代金が当座預金から引き落とされたと

きは、営業外支払手形勘定（負債）の借方に記入するとともに、当座預金勘定（資産）の貸方に記入する。また、利息部分については、前払費用勘定（資産）の貸方に記入し、支払利息勘定（費用）の借方に記入する。

$$\text{支払利息} ¥20,000 = \text{利息相当額} ¥240,000 \div 12 \text{ か月}$$

7.	（借）	未	払	金	400,000	（貸）	営業外電子記録債務	400,000
----	-----	---	---	---	---------	-----	-----------	---------

電子記録債務は、手形債務の代替として使用されるものであり、手形債務に準じて会計処理を行い、電子記録債務勘定として処理される。本問では、未払金について取引銀行を通じて発生記録の請求を行っているため、営業外電子記録債務勘定（負債）の貸方に記入するとともに、未払金勘定（負債）の借方に記入する。

8.	（借）	現	金	500,000	（貸）	預り保証金	500,000
----	-----	---	---	---------	-----	-------	---------

預り保証金とは、契約履行の担保として債権者が債務者より預かった保証金をいう。保証金を預かったときには、預り保証金勘定（負債）の貸方に記入する。

9.	（借）	商品保証引当金	48,000	（貸）	商品保証引当金戻入	48,000
		商品保証引当金繰入	150,000		商品保証引当金	150,000

決算にあたり洗替法により商品保証引当金を設定するため、前期末に設定した商品保証引当金を取り崩したときは、商品保証引当金勘定（負債）の借方と、商品保証引当金戻入勘定（収益）の貸方に記入する。また、当期末における見積額を商品保証引当金繰入勘定（費用）の借方と、商品保証引当金勘定（負債）の貸方に記入する。

$$\text{当期末見積額} ¥150,000 = \text{当期の売上高} ¥15,000,000 \times 1\%$$

10.	（借）	賞与引当金	3,000,000	（貸）	所得税預り金	600,000
		賞与	1,000,000		当座預金	3,400,000

賞与引当金が設定されている賞与の支給を行ったときは、支給額のうち、引当金設定額は賞与引当金勘定（負債）の借方に記入し、支給額と引当金設定額との差額は賞与勘定（費用）の借方に記入する。なお、差し引かれる源泉所得税等の金額は所得税預り金勘定（負債）の貸方に記入し、支給額と源泉所得税等の差額をもって当座預金勘定（資産）の貸方に記入する。

$$\text{賞与} ¥1,000,000 = \text{支給額} ¥4,000,000 - \text{賞与引当金} ¥3,000,000$$

$$\text{当座預金} ¥3,400,000 = \text{支給額} ¥4,000,000 - \text{源泉所得税等} ¥600,000$$

11.	（借）	役員賞与引当金繰入	500,000	（貸）	役員賞与引当金	500,000
-----	-----	-----------	---------	-----	---------	---------

決算にあたり役員賞与引当金を設定するときは、当期末における見積額を役員賞与引当金繰入勘定（費用）の借方に記入するとともに、役員賞与引当金勘定（負債）の貸方に記入する。

12.	(借)	建	物	1,200,000	(貸)	当	座	預	金	4,000,000
		修	繕	引	当	金				1,800,000
		修	繕	費						1,000,000

修繕引当金が設定されている修繕工事を行ったときは、修繕費用のうち、引当金設定額は修繕引当金勘定（負債）の借方に記入し、修繕費用と引当金設定額との差額は修繕費勘定（費用）の借方に記入する。また、改良のための支出（資本的支出）と判断された金額については、建物勘定（資産）の借方に記入する。

資本的支出 ¥1,200,000 = 工事代金 ¥4,000,000 × 30%

修繕費用 ¥2,800,000 = 工事代金 ¥4,000,000 - 資本的支出 ¥1,200,000

修繕費 ¥1,000,000 = 修繕費用 ¥2,800,000 - 修繕引当金 ¥1,800,000

13.	(借)	退職給付引当金	20,000,000	(貸)	所得税預り金	3,000,000
					当座預金	17,000,000

退職一時金を支払ったときは、退職一時金総額を退職給付引当金勘定（負債）の借方に記入するとともに、源泉所得税分を所得税預り金勘定（負債）の貸方に記入し、残額を当座預金勘定（資産）の貸方に記入する。

14.	(借)	保	証	債	務	見	返	3,000,000	(貸)	保	証	債	務	3,000,000
-----	-----	---	---	---	---	---	---	-----------	-----	---	---	---	---	-----------

対照勘定法により他社の債務を保証したときは、負うことに偶発債務の金額をもって保証債務見返勘定（対照）の借方および保証債務勘定（対照）の貸方に備忘記録する。

偶発債務の金額 ¥3,000,000 = 債務保証した金額 ¥3,000,000

15.	(借)	保	証	債	務	3,000,000	(貸)	保	証	債	務	見	返	3,000,000
-----	-----	---	---	---	---	-----------	-----	---	---	---	---	---	---	-----------

対照勘定法により備忘記録を行っていた債務保証について無事決済されたときは、備忘記録を消去するため、備忘記録額をもって保証債務勘定（対照）の借方および保証債務見返勘定（対照）の貸方に記入する。